

- [3] 岡本祐幸：分子研レターズ **44** (2001) pp. 27-29.
 [4] 分子研レポート2001, pp. 62-66.
 [5] <http://science.thomsonreuters.jp/press/releases/esi2010/>
 [6] 例えば、内閣府のホームページ <http://www8.cao.go.jp/cstp/siryu/haihu49/siryu2-7.pdf>
 [7] 岡本HPの「コーヒブレイク」、「名大のおはなし」など。
 [8] 岡本祐幸：「論文の被引用数と大学ランキング」, 名大情報連携基盤センターニュース 第6巻第3号, pp. 229-231 (2007);
http://www2.itc.nagoya-u.ac.jp/pub/pdf/pdf/vol06_03/229_231salon.pdf
 [9] <http://www.phys.nagoya-u.ac.jp/study/ach.html>
 [10] 名大理学部広報誌 理 *philosophia* No. 13 (2007) p.2; <http://www.sci.nagoya-u.ac.jp/kouhou/13/p2.html>
 [11] 朽津耕三：「上田良二先生の思い出」；朽津先生の御好意で、岡本HPの「名大のおはなし」にこの文章を掲載させて頂いています。
 [12] 伊藤光男画伯 画集・画文集；新URLは <http://www.tb.phys.nagoya-u.ac.jp/~okamoto/ito/>



佃 達哉 北大教授に第27回日本化学会学術賞

このたび、「金クラスターの精密合成とサイズ特異的機能」に関する研究成果に対して、第27回日本化学会学術賞という身に余るほどの賞を頂きました。このテーマは、私が分子研に助教授として着任してゼロからはじめたもので、着任当初の惨めでしんどかった4-5年を経ているだけに、喜びもひとしおです。「転出」の際にも書かせていただきましたが、このような向こう見ずな冒険が出来たのも、分子研で独立ポストを与えていただいたお陰です。特に、茅所長・中村所長には「こいつは大丈夫か？」と大変なご心配をかけながらも、絶やさず水を与えていただいたお陰で枯れることなく、どうにか自分らしい花を咲かせることができました。また、研究所内の先生方や、全国共同利用機関であったが故にお近づきになれた所外の諸先生がたにも、いろんな面で本当にお世話になりました。本当に、有り難うございました。

分子研は、グループサイズが小さい、ことが欠点として指摘される場合があります。しかし、むしろ大きな転換を図ろうとする局面では、うってつけのサイズではないでしょうか。つまり、心身ともに活力に満ちている若い時期にこそ少数精鋭のチームを作って一点突破を図るのが、若い研究者にとっての「正しい分子研の使い方（つきあい方）」だと思います。私の場合には、助手の根岸さんやポスドクの角山さん・七分さん達と心を一つにして突き進むことで初めて自分の限界の向こう側に行くことができた実感しています。さて、私は現在北大の触媒化学研究センターで、触媒化学の分野での自分の活用法を模索中です。今後は目に見える研究成果だけでなく、次世代の科学を支える人材を輩出して分子科学の発展に微力ながら貢献したいと願っています。



佃 達哉 (つくだ・たつや)
 元 分子科学研究所 准教授
 現 北海道大学触媒化学研究センター 教授



高橋栄治 理研研究員に 平成22年度科学技術分野文部科学大臣表彰若手科学者賞

この度、「高次高調波による高出力コヒーレント軟X線発生の研究」に関して、平成22年度科学技術分野の文部科学大臣表彰若手科学者賞を受賞致しました。分子研には2004年からの約2年間菱川グループの助手としてお世話になりました。本賞を頂けたのも分子研時代にお世話になった諸先生方のご指導の賜であり、この場を借りてお礼申し上げます。分子研を離れて早4年が過ぎますが、今回受賞者紹介という形で分子研レターズを執筆させていただく機会を頂きましたので、私の近況を含めてご報告させていただきます。受賞対象となった課題はレーザー光を用いた非線形波長変換技術（高次高調波発生）の高出力化に関するもので、2001年から私が取り組んできたテーマでもあります。元々工学部の出身で、世界最高や最短といった比較的分かり易い研究目標が好きなこともあり、“世界最高強度のコヒーレントX線光源”を実現するということで研究をスタートさせました。研究を成功させるには超短パルスレーザー技術が重要な要素となるのですが、多くの方々の

ご協力のおかげで2004年には10 nmまでの高次高調波の高出力化に成功しました。また、その研究が縁で2004年には菱川グループの助手として採用していただきました。分子研ではレーザー光源開発のみならず、私にとって初めての分野であった分子科学研究を菱川さんに一から指導していただきました。その際ご指導頂いた事は、分野が変わった今現在でも研究生活の様々な場面で役に立っております。その後、2006年に理研に移り、新規のレーザー光源を立ち上げ、水の窓と呼ばれる2-4 nmまでの高調波の高効率化研究に取り組み、今回ご報告する若手科学者賞を受賞するに至りました。今年度、菱川さんが名古屋大学に教授としてご栄転され、分子研で遊びに行く場所が無くなってしまったことは寂しい限りですが、共同研究等でまた分子研の方々と一緒に仕事ができれば嬉しい限りです。我々の開発したコヒーレントX線光源にご興味のある方は是非ご一報ください。

今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



高橋 栄治（たかはし・えいじ）
元 分子科学研究所 助手
現 理化学研究所 基幹研究所
高強度軟X線アト秒パルス研究チーム
専任研究員
ejtak@riken.jp